



特 250
68

樟樹の魅力



始



特250
68



目次

- 樟樹の神祕
- 樟樹の産地
- 樟樹の利用
- 觀賞木としての樟樹
- 樟樹と樟腦
- 樟樹造林



寫眞及附圖

神木の靈異
那智の巨樟
湊川神社
大楠公手植の大樟
蒲生の大樟
臺灣和社の大樟
高羽の大樟
日本樟樹蕃殖地圖
古代剝舟
中宮寺本尊
金關寺
萬九郎山造林地
楠山造林地
大和山造林地
野根造林地
佐喜濱造林地

樟樹の魅力

樟樹の神秘

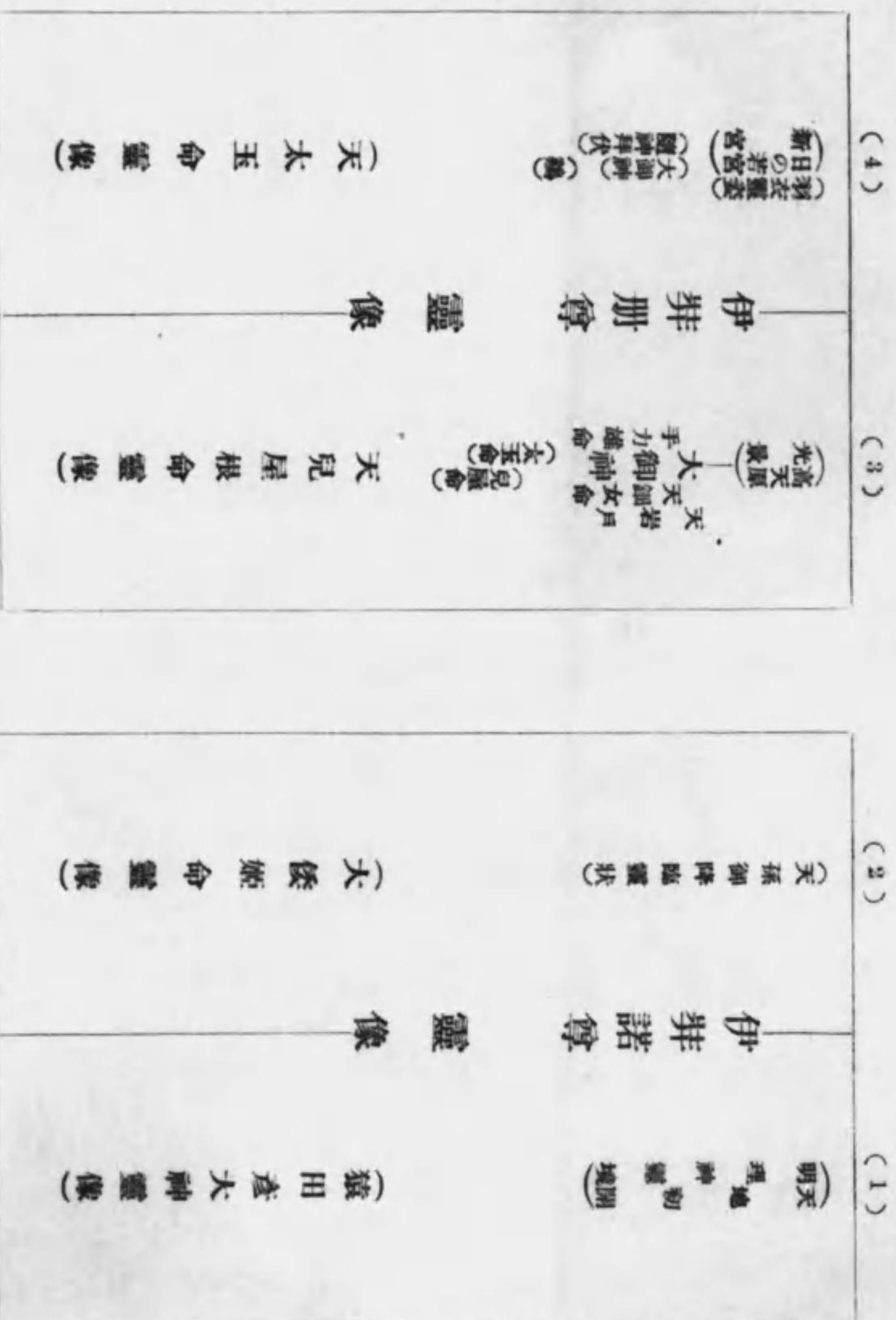
樟樹は我國の樹木の中で最も巨大な常緑樹でありまして壽命が長いのと樹の姿が雄大であります爲めに古くから崇高な樹として神社境内に植ゑられ神秘化して居る樹であります

古來我國を朝日の輝く國夕日の下照る國と歌誦した雅語の由來を尋ねて見ますると上古筑紫に驚くべき櫟の大樹がありまして其の枝葉が四方數百間に繁茂しまして朝暾が其の樹上に閃めき出ますると光明赫灼として世界を吞吐するの概があり既にして夕陽が其の樹下に沒しますると餘光はまだ白日の様であるのに下方の國は已に夜であるといふ様に其の景象の雄大偉觀なる人をして愕然たらしむるものがありました爲め此の如き語が出来たのであると言はれて居ります

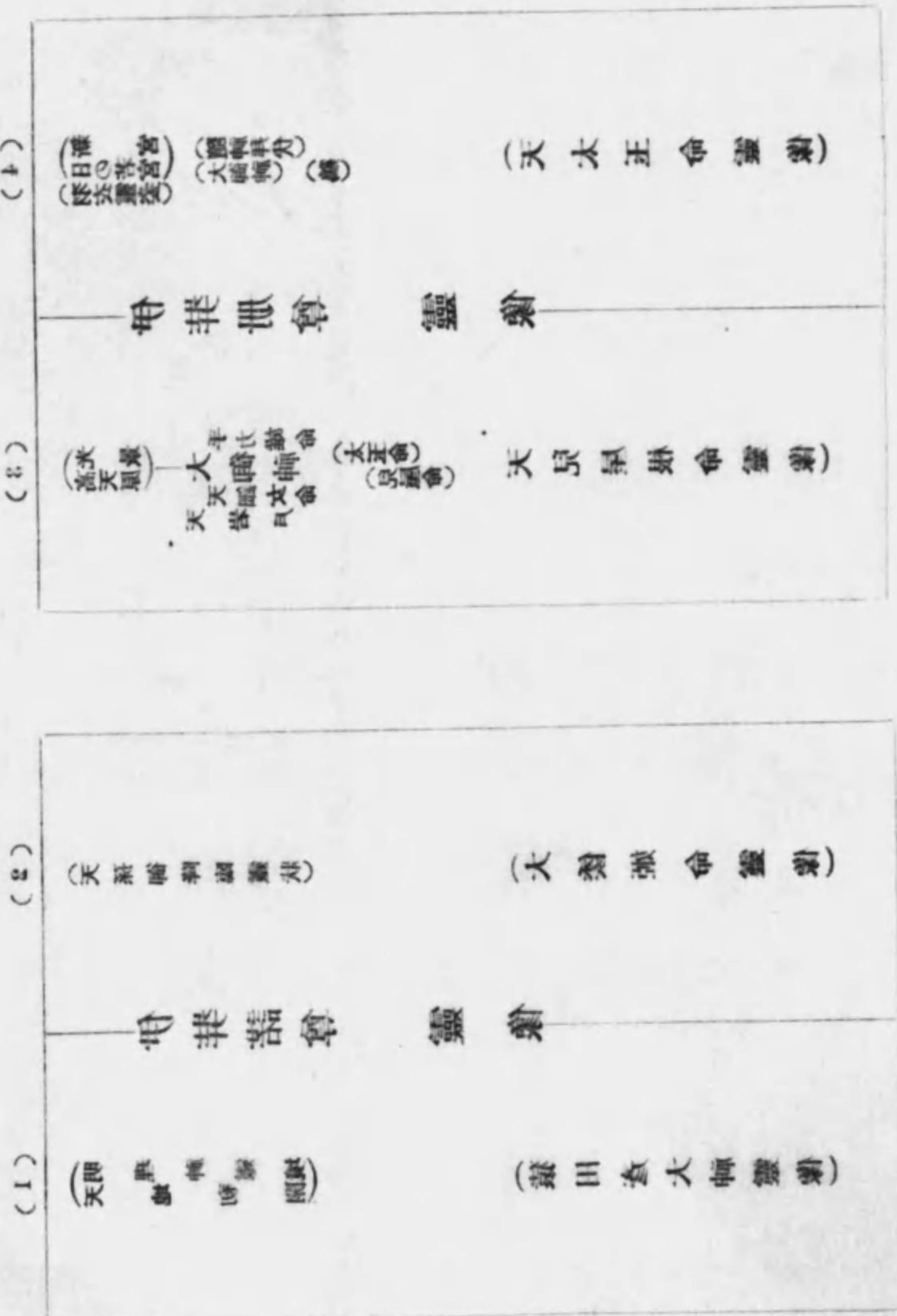
又日本書記に景行天皇秋七月辛卯朔甲子筑紫後國の御木ツクシノキに到りて高田行宮に居

ます時に儼れたる樹有り長さ九百七十丈百寮其の樹を踏むで往來ふ時人歌ひて曰
 く朝霜あさしものみけのさを御木はしまへつきみいわたらすもみけのさをはし爰に天皇問
 ひて曰く是れ何の樹ぞ一老夫有りて曰く是の木は歴木なり嘗未だ儼れざる先に朝
 日の暉ヒカリに當りては則ち杵島山を隠しき夕日の暉に當りては亦阿蘇山を覆しき天皇
 曰く是の樹は神木なり故れ是の國を宜しく御木國と號ふべしと御木イノキは今の筑紫三
 毛郡ミヅノでありまして其の大木の在つた土地は今でも之を樞木村と稱しまして上古の
 面影を村名に留めて居りますそして今日此の地方から掘出した埋木の質より鑑定
 して見ますると正しく樞樟の化石したものであることが確められたのであります
 されば古代に於きまして朝日の耀く國の名に負へる樞も亦日本書記に其の長九百
 七十丈と記されました神木の歴木も皆今世謂ふ所の樞ではなくて總て樟樹の大木
 であつたことが分るのであります又古來我國を扶桑と稱へまするのは樞桑の義で
 ありまして樞桑神木日所出也と云ひまして神木の敬稱を得ました樞桑とは筑紫に
 於ける樟の大樹林でありましたことは明であります
 斯様に我邦と關係の深い樟樹が何れの時代に我國に植付けられたものであるか

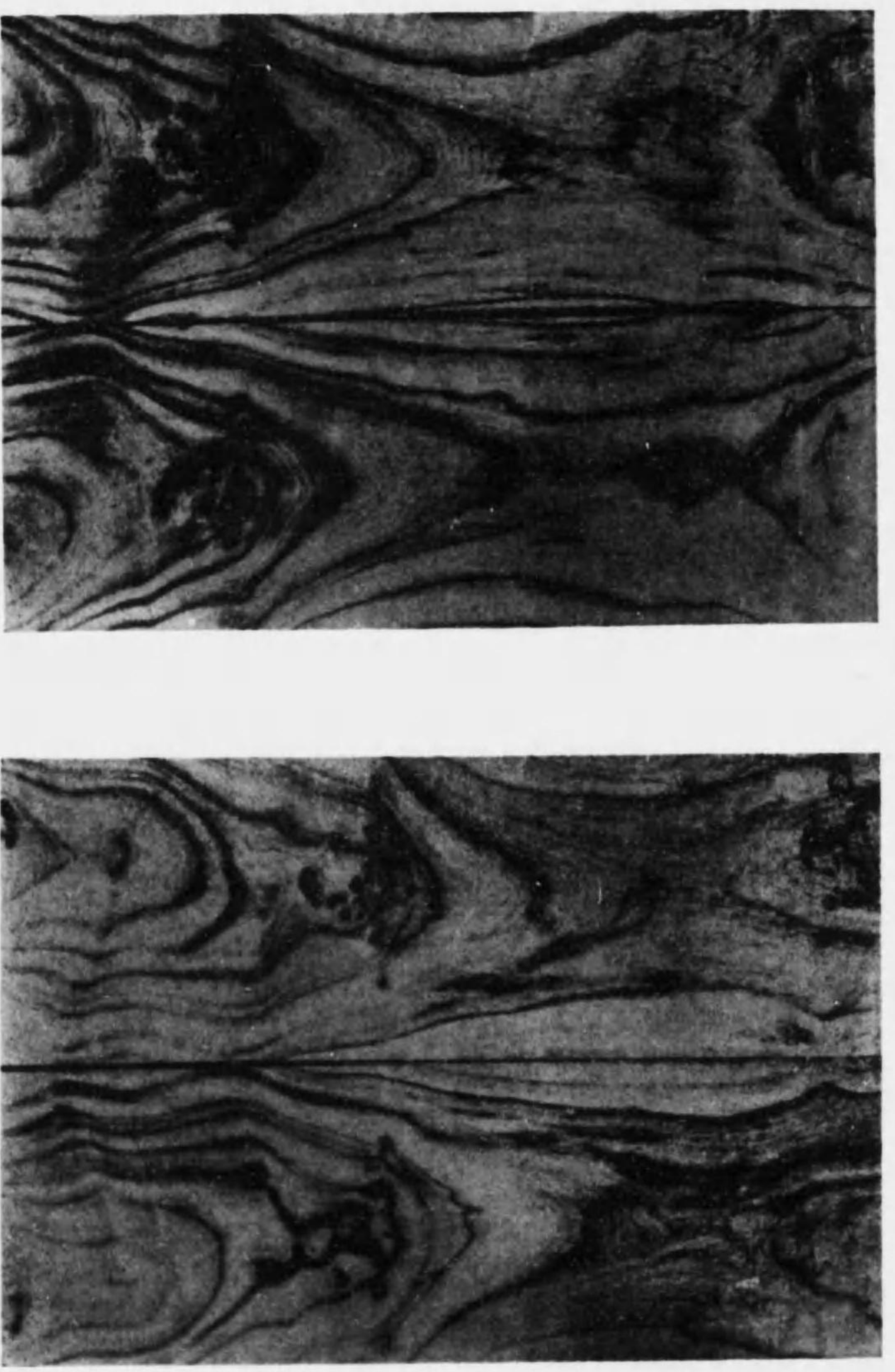
靈像御影御模様



新對崎源崎靈



木神の樟の現出像



「久須乃木」誌ヨリ轉載

と言へばそれは神代に於きまして素
蓋鳴尊が御父伊弉諾尊から大八州の
経略を託されました際に南方人種
中で最も精悍であります熊襲族を
平定されましたから彼等との交通に
依りまして南方人種から樟苗や樟種
子を得ました結果尊は之を九州四國

本土等至る所に殖林せられましたのであります現に今日紀州駿河遠江伊豆等に於
きまして素蓋鳴尊を御祀りになつております神社境内には樟樹の大木が鬱蒼と
して繁茂して居るのを見まするのは之が爲めであります

斯かる有り難き目出度き由來ある樹でありますから普通の樹木と異なり神秘化
したのであります嘗て伊勢外宮豊受大神の神苑にありました大樟樹が顛れました
ので神宮司廳では之を枯損木として公賣に附しましたが之を買受けたる者が木を
挽き割つて見ましたら中から諾冊兩尊の靈像を現はした木理が現はれたといふこ



樟巨の智那

(物念記然天 ありに内境社神四郡野鹿)



大楠公植の大樟

(るき定指に物念記然天 餘丈三國周 りあに内境寺應神町幡八府都京)



とであります斯く樟樹が數百年を経まして太く大きく雄々しくなりますると神々しくなりますものと思はれる次第であります而も此の樟樹が其の生長力が大きくて壽命が長く利用の多きこと等に於きまして樹木中の王ともいふべきものでありますして世界中に於て我國の特産物であるといふことは丁度大和魂の思想が我日本民族の特質として世界に秀でて居るので良く似て居るのであります彼の忠臣大楠公は樟樹に縁がありまして楠公の楠はたふ(楠)の樹をいふたのではなくて樟樹のことであらうと思はれます歴史に醍醐天皇が御夢に紫宸殿の南に大きな常磐木がありました南の枝が殊に良く茂つて緑の陰が美しく云々と御覽遊ばされました樹は正しく樟樹であつたと拜察致します現に京都府下八幡町の神應寺に大楠公御手植と稱する巨大な樟樹があるのを見ましても楠は樟を意味して居ると信ずるのであります

斯様に樟樹は大和魂とも關係を有して居り皇室に對する忠義の念を深からしむる性質を持つて居りまして國の寶といふべきものであります

樟樹の産地

世界に於きまして樟樹のありまするのは我國と南支那とであります。南支那の所産は我國の十分の一にも及ばない位であります。其の優なるものとして居るのであります。而して日本の何れの地方が樟の産地であるかと言へば黒潮の洗ふ地方が最も良く樟の生育に適して居るのであります。即ち樟樹の郷土と言はるゝ臺灣九州及四國を始めとし其の他表日本にありましては黒潮の本流裏日本にありましては黒潮の支流の支配を受くる地域即ち中國地方と近畿地方の全部並に中部地方と關東地方の大部には古來よ

鹿兒島縣蒲生の樟大



りの大木も多いばかりでなく植林した樟樹も良く青々として緑滿るばかりに育つて居ります。

本多静六博士著「大日本老樹名木誌」によりますると日本に於て最も巨大に生長する樹種は樟樹であると斷定されてあります。而して日本全國の樹木中最も巨大

でありますものは實に鹿兒島縣始良郡蒲生村の蒲生の大樟で胸高周圍が實に七十六尺高さ百二尺樹齡約千二百年に達すと稱せられて居ります。元來鹿兒島縣は日本全國中樟樹の適地でありまして古來よりの大木も多く現存するばかりでなく造林木も良く發育して居ります。高知縣も之に次ぐ樟樹

臺灣和社の大樟



の適地であります

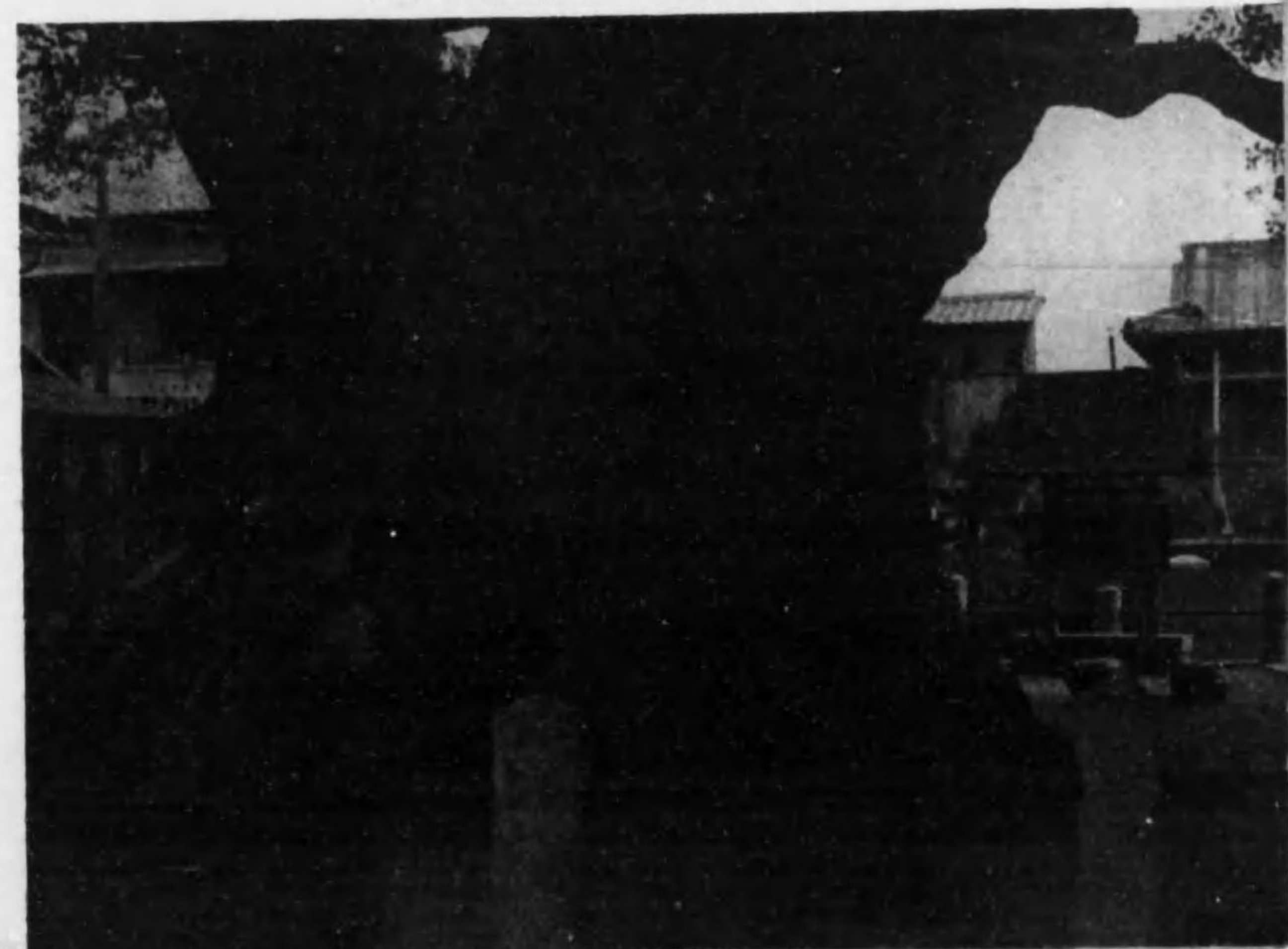
次に臺灣も樟樹の適地でありまして海抜千五百尺から六千尺までの間に最も良く生育して居ります現在臺灣で最も巨大であります樟樹は臺中州新高郡蕃地和社にある老樹でありまして胸高周圍五十四尺高さ百六十八尺で推定樹齡は千四百年と稱せられて居ります

越より飛彈へ行きて龍の渡りのあやうき所々
道もなき山路にさまよひて

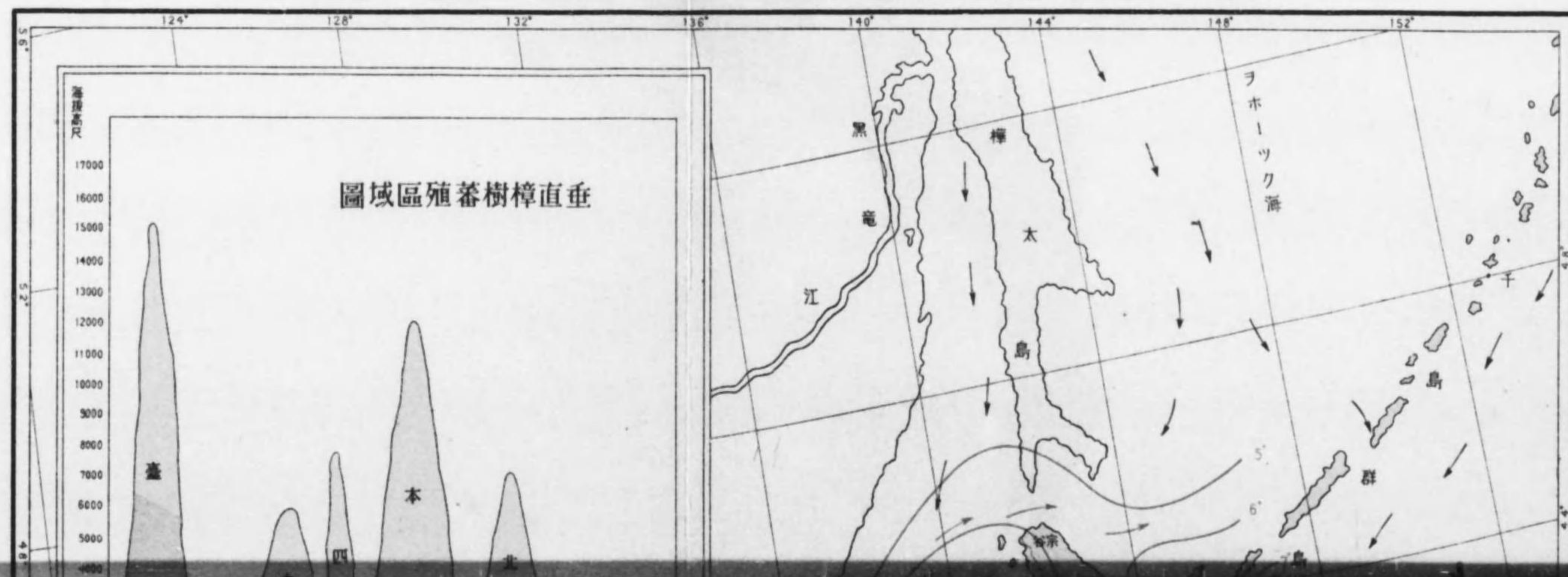
鷲の巢の樟の枯枝に日は入ぬ 凡兆

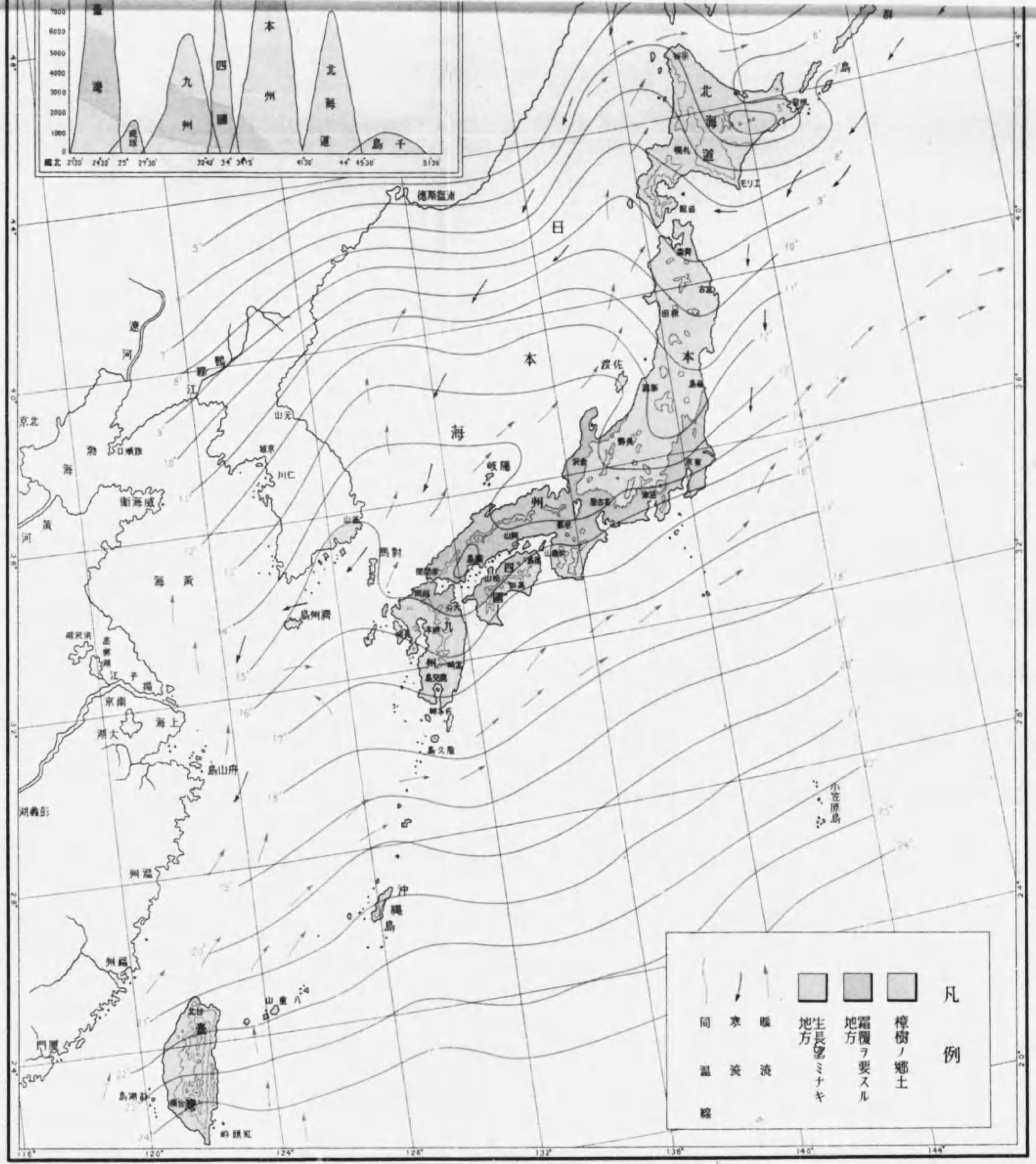
樟大の羽高戸神

(るき定指に物然記念天 りるに羽高區郡市戸神)



日本樟樹蕃殖區域圖





樟樹の利用

古來我國の樹木の中で樟樹ほど利用の途の廣いものは他に類が尠なく又將來も益々利用が増加する一方であらうと思はれます
今其の利用の状況を見ますと

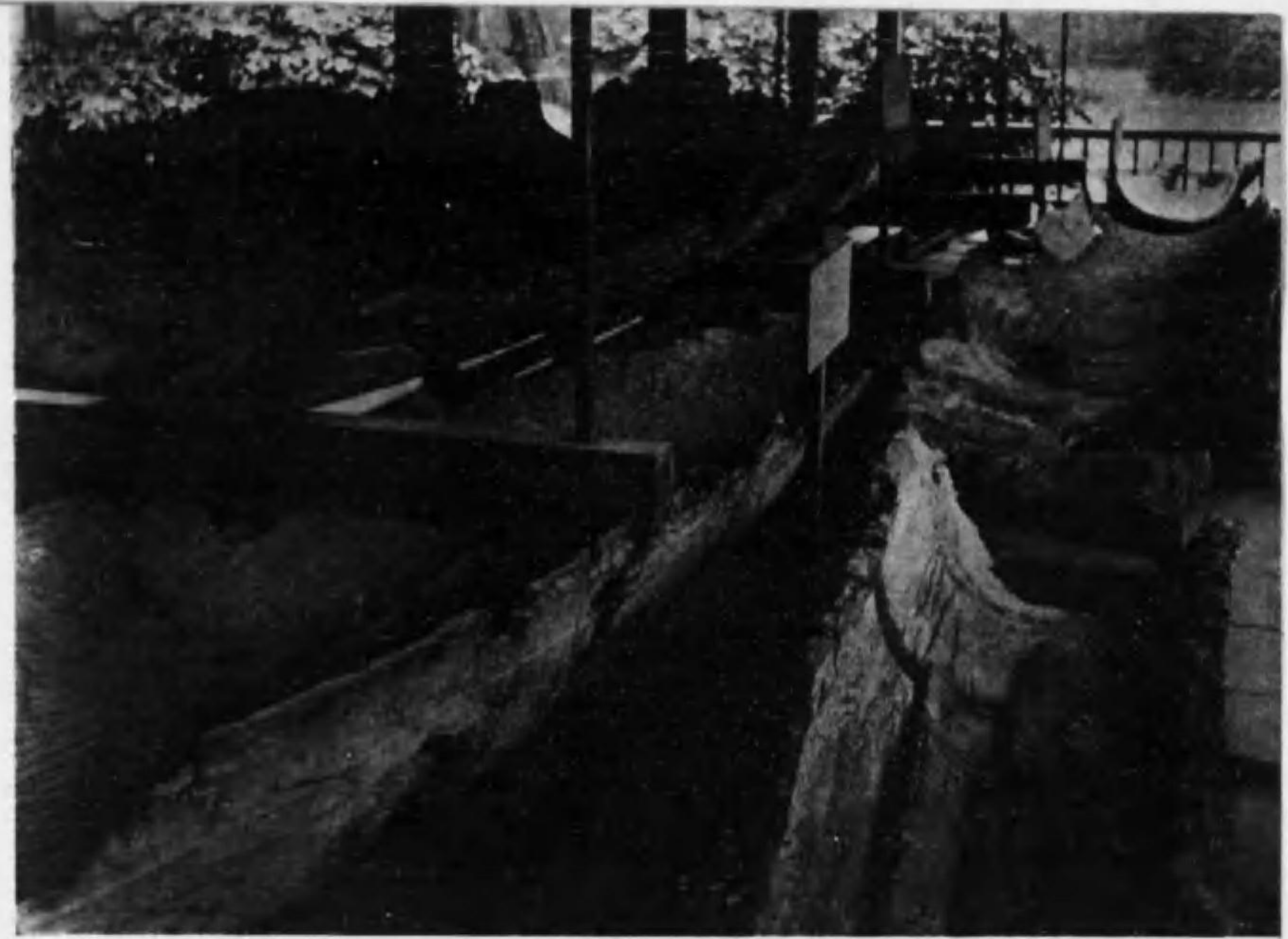
- 一 樟樹は水濕に對して保存期が永いから古來船艦材に用ひられました神代に於きまして素盞鳴尊は杉と樟とで船船を造らしめ給ふたのでありまして彼の天の磐楹樟船鳥の磐楹樟船天之鳩船等は何れも樟樹の中央を細長く列り取つて作りました船の名であります我大和民族が萬里の波濤を踏破して海外に飛躍しましたのも皆此樟の刳船を用ひたのであります近年發掘せられた刳船は何れも皆千數百年前に我大和民族が使用したものでありまして其の保存期の永いのは驚かざるを得ないのであります
- 二 樟材は其の保存期が長いばかりでなく香氣もあり光澤もありそして木理が美麗でありますから古來我國に於ては之を佛像の製作に用ひたのでありまして



樟 一 木 の 佛 像

Ⅱ 大和中宮寺本尊、傳如意輪觀音像 Ⅱ

この像は高五尺二寸楠材一木造りもとは金箔押のものであつたらうと思はれるが現在ではこれも剥落し、千年の古澤が素地に光澤ある黒色を呈しその美しさは言辭を以て形容し難い。尊身は上身に一絲も纏はず圓筒状の臺座に布帛を覆ひ、その上に半跏倚坐し左足を前下げて蓮臺を踏み、その膝上に右足を横たへて左手を安き右手を以て軽く頬支へる所謂半跏思惟の像容のものである——以下略(日本美術史「飛鳥時代の彫刻」内藤藤一郎より抜粋)



舟 列 代 古

もれ孰てしに舟列の代古しれらせ掘發りよ所各内市阪大てり互に和昭・正大・治明は圖上皆。るらせ稱さ前以史有に實はのもの掘發りよ呼橋神天し過經な年千二上以年百四千一敷校學小二第町洲鷺りあさ式材覆るたせ合き接さ式材單しり列を木巨の本一てしに材樟釘鐵に巳時當。るらせ稱さ大最界世てしと舟列式材單尺一十四さ長はのもの掘發りよ地所個合接を皮掄りあのもの緻巧當相術技りあのもるせなとさ接龍印は合接る用せ併釘木。るあてれさ列陳に下關守天城阪大は等是りあのもるせなとめ止水てし填充に

三

飛鳥朝時代に彫刻せられた樟材の佛像が今日法隆寺其の他の寺院に國寶として多く保存されて居ります
樟材は其の質堅軟中庸を得て居りますそして木理は緻密にして色澤又美麗でありまして琢けば直に平滑となりまして天鵞絨製品と一様の美觀を呈しまするので建築に使用せられ其の他幾多の室内の裝飾器具材に使用せられて居ります
京都金閣寺の天井は樟の一枚板で張られてあるのは有名な

ものであります又室内の器具としましては机戸棚筆筒小函鏡臺床火鉢等に
廣く使用せられて居ります又樟材には腦分が含んで居つて芬々たる香氣を放
ちまして蠹蝕を豫防する效力がありますから貴重なる書畫珍器裝飾具等を
貯藏する容器に使用せられて居ります

四 樟材の木理が燦然として文^{ウツ}をなして居つて其の肌膚に大小の環紋狀や渦狀を
なして珠^{シマ}杓^{シヤク}如^ニ鱗^ニ杓^ニ等の稱あるものになりますと最も貴重なるものとして賞
用せられましたベニヤ板の材料にも使用せられて居ります

五 樟の葉は公孫樹の葉と同じ様に書籍の紙片中に挟みまして蠹蝕を防ぐ爲めに
用ひられて居ります

樟一枚板の天井

|| 京都 金閣寺 ||

金閣は園池に臨んで南面し、地上四十二尺三層の樓閣にて初層は法水院と號し、正面七間、側面五間半、第二層は潮音洞と呼び大き初層と同じく、第三層は究竟頂と名づけ方三間なり、頂上の屋根は寶形造頂に露盤を置き其上に高さ三尺六寸の金銅製鳳凰を載す。中層内部の極彩色なるに對して上層のみは内外を盡く漆にて塗り金箔を押ししたり、之即ち金閣の名ある所以、天井は樟の一枚板を以て張る實に疊十八疊に當る。

八疊の楠の板間をもる時雨

其角



觀賞木としての樟樹

樟材が斯の如く船舶材建築材器具材等に賞用せらるゝばかりでなく樟樹其の儘のものが庭園を裝飾する觀賞木として風致樹として頗る價值あるものでありまして其の若き木の葉が常に青々として蒼翠滴る様を眺めますると何人も其の生氣に打たれないものはありません又其の樹姿が老ひて益々槎枿として雄大なる様は見るものをして崇高の念を起さずには居られませんが若くて美しく壯にして更に麗はしく老ひて益々雄々しき樟樹は庭園に植ゑて奥床しさを増し街路樹として盛夏綠蔭を作り公園學校に植ゑて壯麗の美觀を呈し其の他觀賞木として風致樹として植栽する價值十分にあるのでありまして我國に於きましても之を實施しつゝある地方少なくありません又北米合衆國の南部地方に於きましては風致樹として樟を植栽しまして美觀を呈して居るもの少なくありません

樟樹と樟腦

樟樹の利用の最も大なるものは樟腦の原料に供せらるゝことでありまして樟腦は我國の特産物であつて其の用途は實に廣くセルロイド用寫眞フィルム用醫藥用防蟲防臭用燒燻用化粧品用龍腦用等に使用せられて居りまして其の需要は年々増加する一方でありますそして現在世界の總需要高は壹千萬斤内外であります之に對し我國の供給高は六百萬斤内外でありますから常に供給不足を託ちつゝある状況にあります其の結果歐米に於て合成樟腦の勃興を見た様な次第であります次に樟腦製造の際副生する白油赤油藍油等は醫藥香料防臭等に使用せられまして其の需要は逐年増加を見つゝあるのであります

以上のように樟腦の利用は實に多大でありまして將來益々増加する傾向であります

樟樹造林

上來述べました様に樟樹は我國の天與の特産物でありまして其の利用は廣く殊に樟腦としての利用價值が大でありまして其の大部分が外國へ輸出せられ莫大な國益を齎らして居るのでありますから今後其の造林を益々盛んに致しまして樟腦の生産を永遠に維持する様努めねばならないと信じます

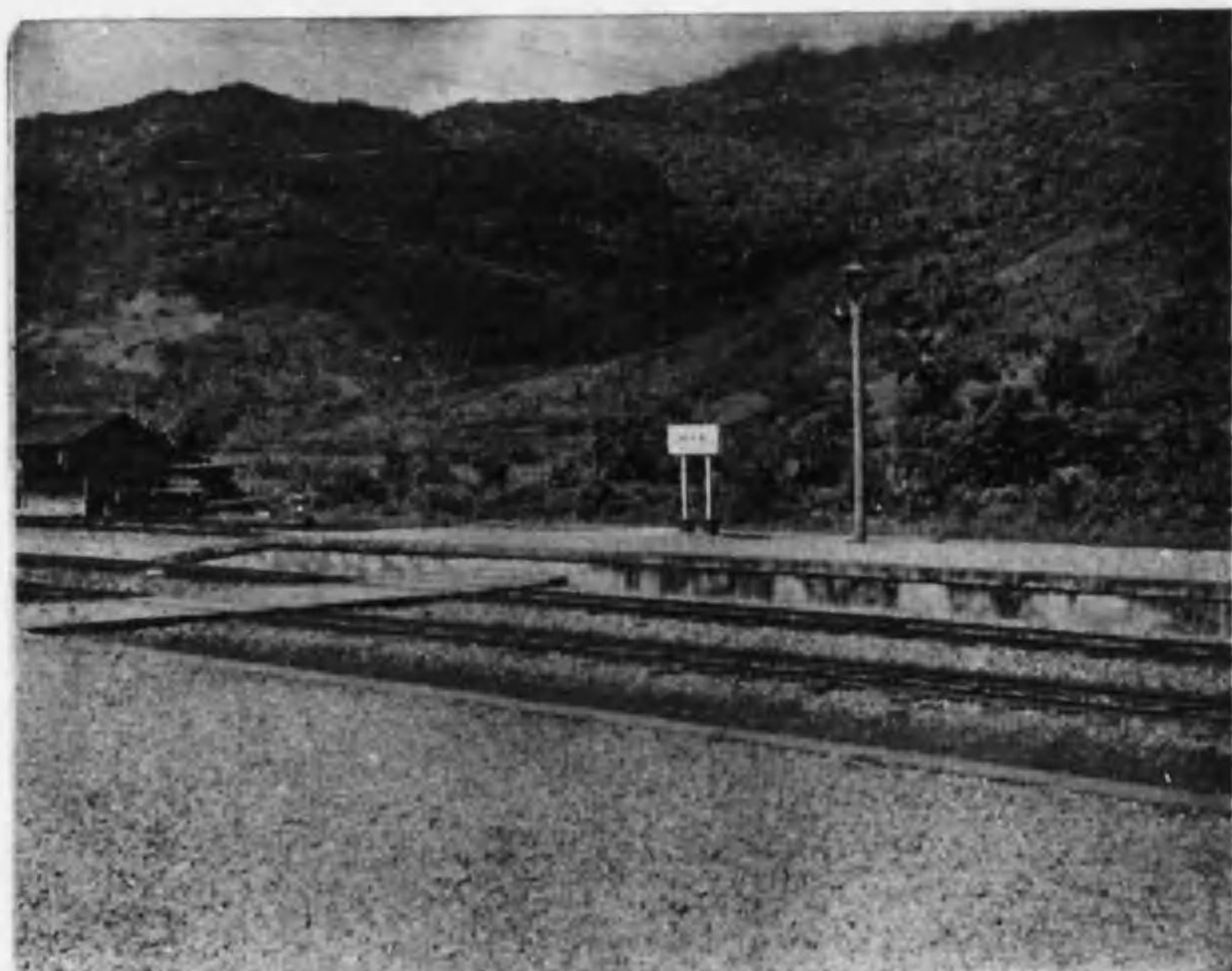
從來樟腦の製造には老大木の幹や根のみを原料として居りましたが製樟は長年月を経過しなければ収益を見ることは出来ないと思はれて居りましたが製樟技術の進歩に依り近年は比較的樟の若木即ち三十年生位のもを原料に供し充分採算に合ふ様になりました又枝葉製腦法も段々發達致しまして六、七年を経過しますれば枝葉から製腦し得るのでありますされば子孫百年の計の爲めのみでなく現に造林した其の人の生涯中に着々利益を收むることが出来る様になりました

政府に於かれましては專賣制開始以來樟樹造林を獎勵せられ來つたのでありま



楠山造林地
(高知縣多額捐上村)

して殊に大正十五年以來は年々樟苗木を造林家及一般に無償配付せられて居りまして最近では之が包裝費運賃迄も政府負擔として便宜を計つて居られますそれでありましてから樟樹造林を大きくやる人は春種子を蒔いて苗木を養成し翌年の春に床替を爲して更に一年間育成して翌年の春に山地に植栽するものであります少し位の造林でありますならば自分で種子を播いて苗木を養成しなくても專賣局から無償配付を受け得られるのでありますから適地を選んで植付ければ宜しいのであります其の適地としましては土地が砂質壤土の地であつて南向きの谷間又は濕氣深くて其上温かな海風の吹



大和山造林地
(高知縣花岡郡林野)

き来る平地が理想的であります植付後は下草の苜蓿劣等木の伐採等撫育管理を怠らない様にしなくてはなりませんそれから樟を植付けるに當りましては單純林仕立と申しまして樟のみを植付ける方法がありますが之は其の植付作業其の他は比較的簡易ではあります有害なる昆蟲や菌類の傳播蔓延が早くて又寒害に對する抵抗力も弱いのであります之に反して混淆林仕立と稱して樟樹と他樹とを混淆して植付ける方法によりますると之等の諸害は少なくて成育は安全であると言はれて居ります

右様の次第でありますから黒潮本支流の流るゝ地方に於きましては樟樹造林を徹

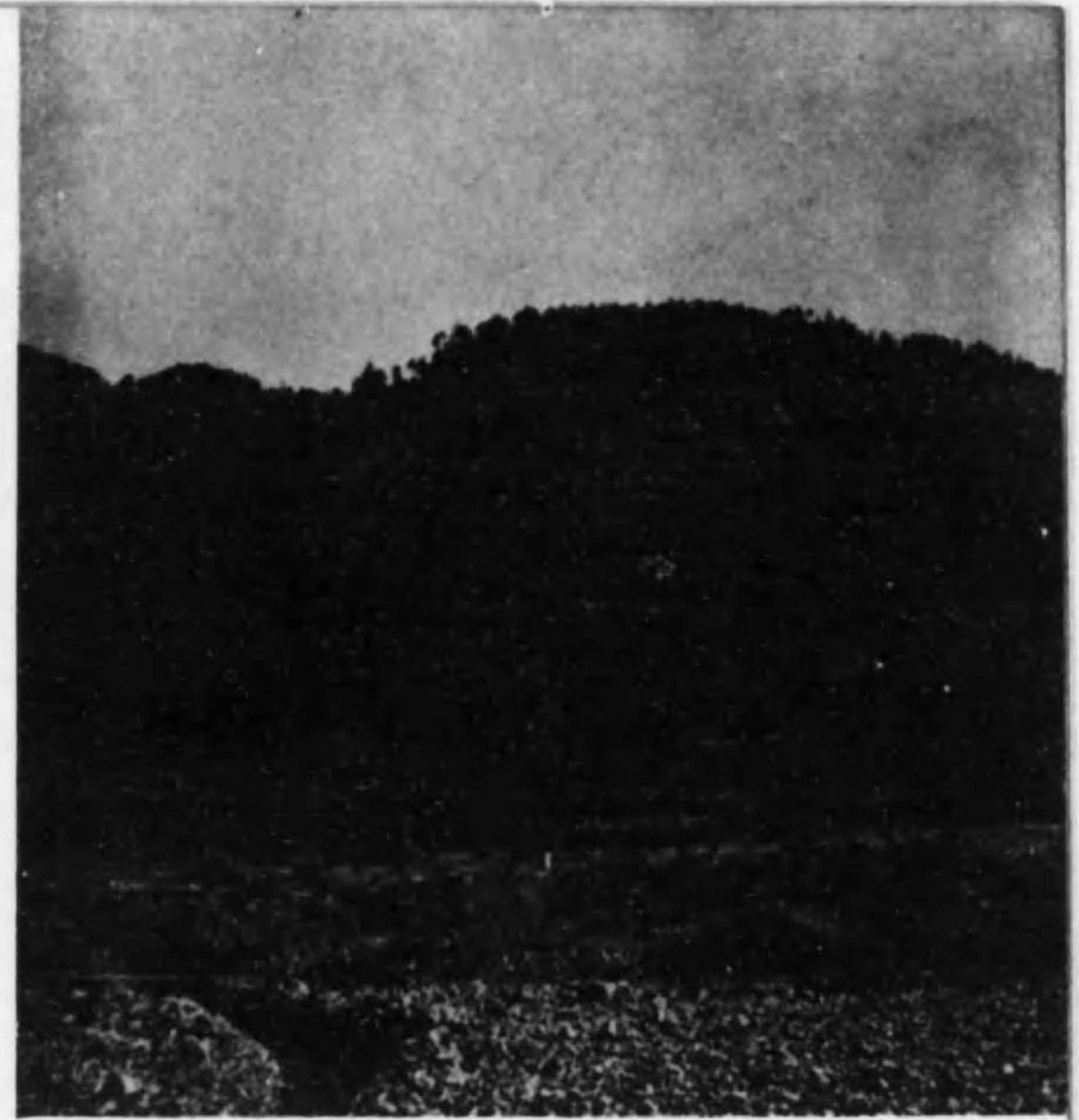
萬九郎山造林地
(高知縣島野郡之内捕町)



底的に遂行せられますと同時に神社佛閣公園市町村役場學校其の他公共建造物の庭園個人の宅地畑の周圍河川の堤防道路の側傍等にも盛んに樟樹を植栽せられまして基本財産記念林其の他の目的に供せられんことを切望して止まざる次第であります

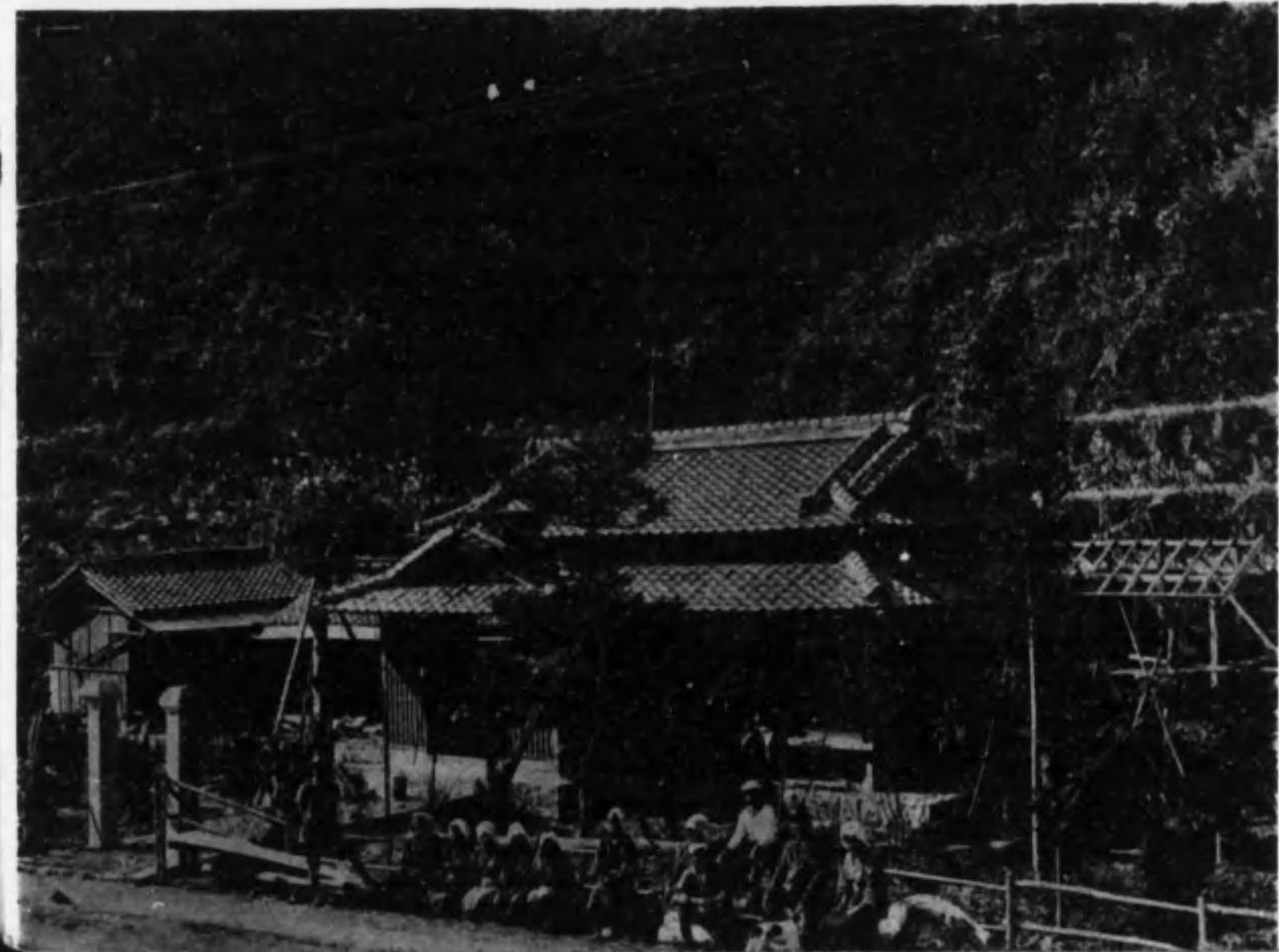
吾々國民及吾々の子々孫々は神代以來我國の樹王であり我國の特産である樟樹の植栽を永續して利用厚生の途を講せねばなりません斯くすることが吾々國民の國家に對する義務であり又祖先に酬ゆる所以であると信じます

當社に於きましても先年來高知縣東海岸に樟樹及松樹の植林を爲してまいりました



野 根 造 林 地
(高知縣安藝郡野根村)

佐 喜 濱 造 林 地
(高知縣安藝郡喜濱村)



が同地は前面に海を受け土地が肥沃で樟樹の適地でありますから幸に生育は良好で今や模範林として推奨せらるゝ様になりました尙ほ最近鹿兒島高知兩縣下並に臺灣に於きましても比較的大規模の造林に着手し製腦資源の涵養に努めつゝある次第でありまして微力ながら國策に順應して行き度い考へであります
上記各造林地は當社の經營に係るものにして其一端を撮影したものであります

(完)

384
616

植樹禮讚

樹を植て水害の禍を除きませう
樹を植て國を富ましませう
樹を植て健康を増進しませう
樹を植て山野を美化しませう
樹を植て祖先に謝し子孫に遺しませう

昭和十三年十一月十日印刷
昭和十三年十一月十五日發行
(非賣品)

編輯者 戸田終爾

發行者 日本樟腦株式會社

印刷者 松村宗太郎

印刷所 光村印刷株式會社

終

